

Admission
Free

May 28th, 2009
19:00- Keio Univ. (Hiyoshi Campus)

〔国際舞踏ワーク・イン・プロGRESS〕 磁場、あるいは宇宙的郷愁
International Butoh Work In Progress
Ko Murobushi × Bernardo Montet × Boris Charmatz

Les Champs Magnétiques, ou la Nostalgie Cosmique

〈アーティスト/ダンサー〉
室伏鴻 × ベルナルド・モンテ × ボリス・シャルマッツ

国際的に活躍する3人の
ダンサー・振付家である、室伏鴻、ボリス・
シャルマッツ、ベルナルド・モンテが、それぞれの創
造行為への敬意と、これまで築き上げてきた相互の信頼を
ベースに、さらに発展的で探求的な共同創作に踏み出している。
国境を越えて移動し、世界各地で身体表現を模索する3人がついに日本に集結し、
日本での初めてのコラボレーションが実現する。
世界が注目するダンス・プロジェクト、待望の慶應・日吉セッションである。

写真:左より 室伏鴻、ベルナルド・モンテ、ボリス・シャルマッツ



© Takayama Sayaka



© Laurent Ziegler

2009年5月28日(木) 慶應義塾大学日吉キャンパス 来往舎イベントテラス

16:00- ダンス映像上映 (室伏鴻、ボリス・シャルマッツ 記録映像)
ゲスト: バジル・ドガニス、パトリック・ドゥ・ヴォス
19:00- パフォーマンス Work In Progress

入場無料・事前申込み不要
東急東横線・横浜市営地下鉄グリーンライン 日吉駅下車 徒歩1分

【主催】 慶應義塾大学アート・センター
【助成】 財団法人セゾン文化財団
【運営】 NPO 法人魁文舎 NPO 法人舞踏創造資源
【協力】 亀村佳宏

【お問い合わせ】
慶應義塾大学アート・センター TEL: (03) 5427-1621 FAX: (03) 5427-1620
Email: art-c-butoh2009@adst.keio.ac.jp
Website: <http://www.art-c.keio.ac.jp/event/log/304.html>

現在、フランスのトゥール国立振付センターの芸術監督を務めているベルナルドはかつて、室伏鴻のワークショップの生徒でもあり、室伏の舞踏に対する深い関心と敬愛の気持ちをもって、2000年のモンペリエ・ダンスフェスティバルのベルナルドの作品に室伏を招いている。モロッコ人の父を持つベルナルドと、15年もの流浪の旅を踊り続けた室伏は、つねにEdgeに立ち、境界と境界の狭間に生きてきた。二人は互いに磁力で引かれるように、共通する魂を嗅ぎ取ってきたのであろう。2007年、二人がフランスのアンジェで邂逅した際に、ベルナルドから共同創作のアイデアが出され、アーティストコラボレーションが始まった。まず、2008年1月にベルナルドの活動拠点トゥール国立振付センターと、彼の心のルーツであるモロッコで開催された芸術祭に室伏が招聘され、ワークショップとソロ公演が行われた。

ボリスは1996年、パニョレ国際振付家コンクールの振付賞と最優秀ダンサー賞を弱冠23歳で受賞し、衝撃的なデビューを果たした。97年にはその作品をもって日本でも上演している。35歳のボリスは今や、ヌーベルダンス以降の新時代を切り開く才能豊かなダンサーとして、世界で最も期待されているダンサー・振付家といえよう。ボリスはベルナルドをフランスのヌーベルダンスの旗手として尊敬している。また、日本の舞踏にも大きな関心を寄せていて、08年秋には、土方巽のテキストをもとにしたダンス作品、その名も「La Danseuse malade (病める舞姫)」を発表し、その後、ヨーロッパ各地を巡回公演している。

今年2月には、ウィーンでのフェスティバルで芸術監督を務めるボリスが室伏を招聘し、ボリスと室伏のコラボレーションが試みられた。5月後半にはプロジェクトはさらに進行し、室伏とボリスが九州・別府に滞在し、「現代美術フェスティバル-別府混浴温泉世界」の一環として、ワーク・イン・プロGRESSでパフォーマンスを発表する。

世界のさまざまな場で、互いに刺激し発見し、討議しコンタクトして踊りを探求する活動は、最終的には日本とフランスでの公演として実現される予定であるが、創作のスリリングなプロセスを重視しつつ、肉体の原点に依拠した自らの踊りを追究する実験的プロジェクトとして進行している。